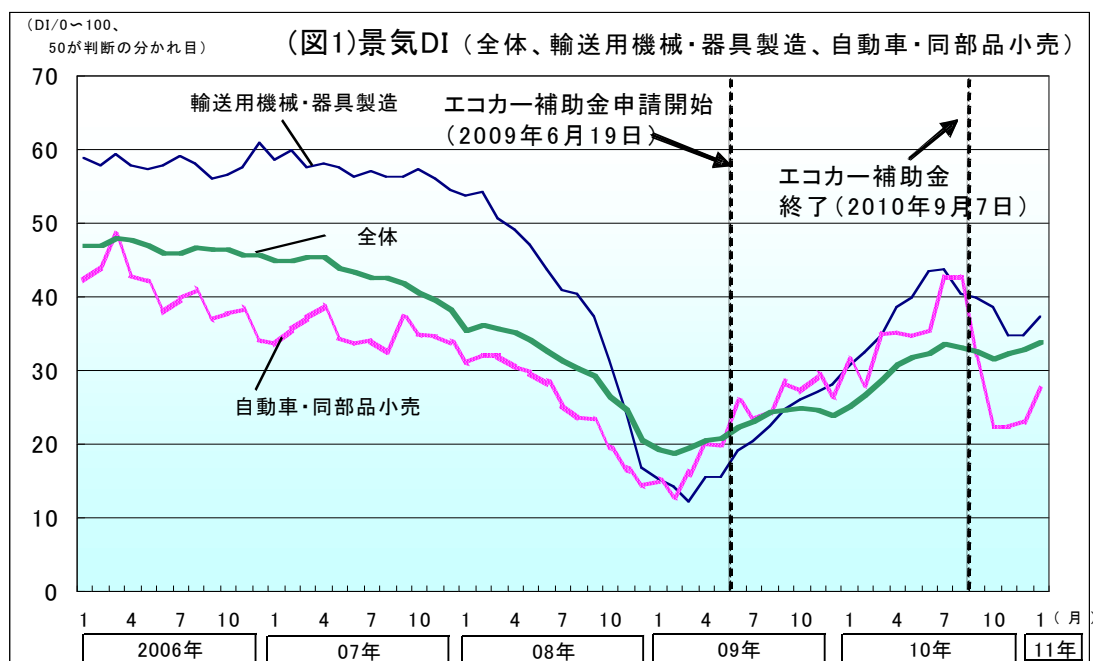


エコカー補助金終了の影響

- ・「輸送用機械・器具製造」の景気 DI は 2010 年 7 月には 43.7 となり、エコカー補助金導入後最高。終了後の 12 月には 34.5 まで悪化。2011 年 1 月は 37.2 とやや改善
- ・「自動車・同部品小売」の景気 DI は 2010 年 8 月にエコカー補助金導入後最高の 42.7。終了後、10 月には 22.4 まで大幅悪化。12 月、2011 年 1 月は改善し下げ止まりの兆し

2010 年 9 月 7 日のエコカー補助金制度の終了から 5 カ月が経った。新車登録台数は終了間際には駆け込み需要が発生し、2010 年 8 月は前年同月比 46.7%増の 29 万 789 台となった。しかし、終了後の 10 月には前年同月比 26.7%減の 19 万 3,258 台に落ち込んだ。回答企業からも「補助金の終了にともない商談件数が激減」（自動車・同部品小売）など非常に厳しい声が聞こえる。エコカー補助金終了の影響はどの程度であったのだろうか。TDB 景気動向調査の自動車関連業種である「輸送用機械・器具製造」「自動車・同部品小売」の各種 DI から考える。



まず、「輸送用機械・器具製造」の景気 DI についてみてみる。景気 DI は、エコカー補助金の導入が決定したことなどから 2009 年 3 月 (12.1) を底に改善し、2010 年 7 月にはエコカー補助金導入後の最高 (43.7) となった。だが、エコカー補助金が終了した 9 月には 39.7 となり、10 月 (38.4)、11 月 (34.6)、12 月 (34.5) と悪化が続いた。直近の 2011 年 1 月には 37.2 とやや改善し、下げ止まりの兆しがみられる。エコカー補助金導入後の最高である 2010 年 7 月と 12 月を比較すると、景気 DI は 9.2 ポイント減と大幅に悪化した。売り上げ DI は 13.7 ポイント減、設備稼働率 DI は 6.8 ポイント減、生産・出荷量 DI は 9.5 ポイント減となった。売り上げ DI の悪化幅が

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。

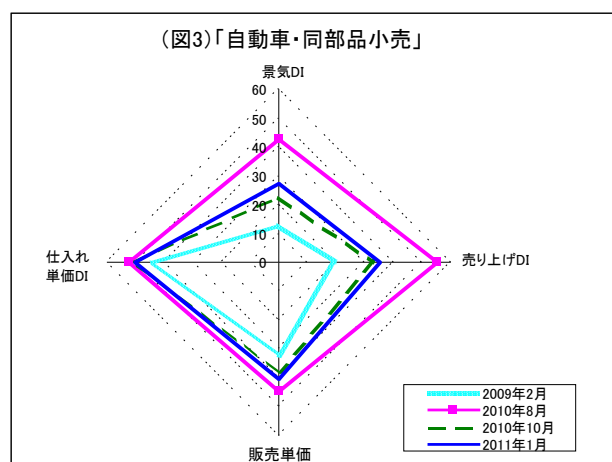
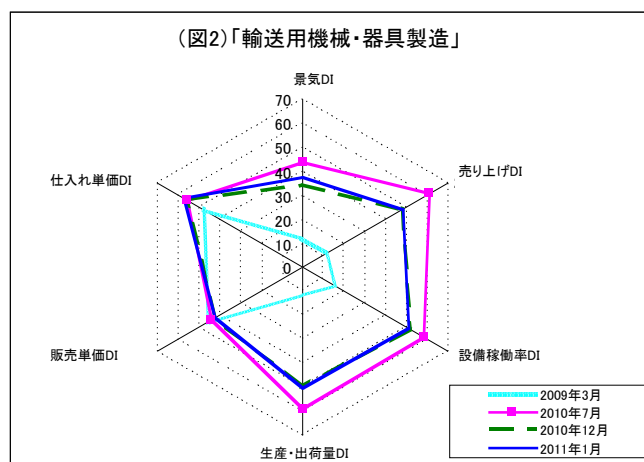
TDB DI 分析レポート

TDB 景気動向調査 (URL: <http://tdb-di.com/>)

最も大きく、エコカー補助金終了により、売上げが特に大きく減少したことが分かる。また、販売単価 DI は 1.5 ポイント減となったが、仕入れ単価 DI は 0.4 ポイント増となった。

過去最低となった 2009 年 3 月と 2010 年 12 月を比べると景気 DI は 22.4 ポイント、売上げ DI など上回っており、最悪期ほどの状態には陥っていない。ただし、販売単価 DI は 3.4 ポイント下回り、仕入れ単価 DI は 8.7 ポイント上回った。販売単価は低下しているが、原材料高などもあり仕入れ単価は上昇していることから、収益性は厳しさを増している。

「自動車・同部品小売」の景気 DI については、2010 年 8 月が 42.7 でエコカー補助金導入後の最高となったが、9 月 (31.9)、10 月 (22.4) と大幅に悪化し、「輸送用機械・器具製造」よりも急速に悪化した。2010 年 8 月と 10 月を比較すると、景気 DI は 20.3 ポイント減と悪化した。売上げ DI は 22.5 ポイント減、販売単価 DI は 6.9 ポイント減、仕入れ単価 DI は 2.0 ポイント減と低下した。「自動車・同部品小売」も特に売上げ DI の悪化幅が大きい。景気 DI が過去最低となった 2009 年 2 月 (12.9) と比べると、依然大きく上回っているものの、急速に業況は悪化した。その後 2010 年 11 月 (22.4) は横ばい、12 月には 23.0、2011 年 1 月には 27.2 と 2 カ月連続で改善し、下げ止まりの兆しがみられる。ただし、全体 (33.7) を大きく下回っており、51 業種中でも、最下位の「その他の小売」(19.4) に次ぐ非常に低い水準となった。



エコカー補助金終了は、「輸送用機械・器具製造」、「自動車・同部品小売」とともに売上げに特に大きな影響を与え、2009 年初めの最悪期ほどではないものの、業況を大幅に悪化させた。「輸送用機械・器具製造」と「自動車・同部品小売」を比較すると、「輸送用機械・器具製造」の悪化が緩やかであった。これは輸出が関連している。内需はエコカー補助金終了により急減したが、海外需要は堅調を維持しているため、「輸送用機械・器具製造」はその恩恵を受けた。しかし、日本企業は円高や成長市場である新興国でのシェアが小さいなど「輸送用機械・器具製造」の競争力は必ずしも高いとはいえない。

景気 DI では「輸送用機械・器具製造」「自動車・同部品小売」とともに下げ止まりの兆しもみ

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。

TDB DI 分析レポート

TDB 景気動向調査 (URL: <http://tdb-di.com/>)

られるが、売り上げの減少などの影響は続くのだろうか。2010年9月の特別企画「政策支援終了による企業への影響調査」では、自社に「影響はある」と回答した企業に対し、影響がどのくらいの期間続くと想定しているか尋ねたところ、1年以上にわたり影響が続くと想定する企業は、「輸送用機械・器具製造」では約4割、「自動車・同部品小売」では約3割となり、エコカー補助金終了の影響は今後も続く懸念がある。

同調査では今後の対応策として、「輸送用機械・器具製造」では仕入れ単価が上昇していることや、販売単価を抑えた新興国向け製品の販売強化などもあり「コストの見直し」が50.0%で1位、「自動車・同部品小売」では「自社独自の販促支援」が63.9%で1位となっており、収益性の改善や、販促の強化を中心に売り上げを回復させようとしている。ただ、エコカー補助金により国内需要は先食いされており、輸出に関しても各国の企業との競争激化や韓国がFTAを結ぶ対象国を拡大するなど関税の面でも差が開きつつあるため、企業を取り巻く環境は非常に厳しく、各企業の努力だけでは限界がある。日本の景気が回復しなければ、また輸出が停滞すれば、補助金終了の影響がさらに長期化する可能性もある。外交政策、経済政策について十分に議論し、日本経済を回復に導いていくことが必要だ。

(産業調査部 経済動向研究チーム K.S)

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。